地域をつなげる、地域とつながる
－筑波山麓地域づくりプロジェクトの「夢」－

関根久雄　　人文社会科学研究科国際政治経済学専攻准教授
（せきね ひさお／文化人類学、地域開発論）

つくば市内の二極化：希薄な関係

「筑波山麓地域」をご存知だろうか。自動車で「筑波山道入口」から県道42号線をのぼって筑波山（神社）や温泉を訪れることはあっても、あるいは八郷で味覚狩りに興じることはあっても、「山麓」の人々が暮らす地域の様子を具体的にイメージすることのできる学園地区住民は少ないのではないだろうか。

既知のとおり、つくば市は1987年に筑波郡谷田部町、大穂町、豊里町、新治郡桜村の4町村が合併して新設されたまちである（その後、1988年に筑波町、2002年に茎崎町が編入された）。とりわけ、1970年代に筑波研究学園都市がつくられ、大学や各種研究機関が移設されてからは、研究者や学生など流動性の高い一時的定住者や新規移入者（一時的定住者だった人が家やマンションを購入して定住体勢を整えた人など）が数多く暮らす学園地区（地元の人々は「新住民」と呼ぶことがある）と、旧町村の土地や社会との歴史的連続性をもつ人々が暮らす田園地域への二極化傾向が顕著である。基本的に、これまで両地域間には人々の日常的交流や社会的融合の機会は稀であり、同じ市に居住する者としての一体感（「つながり」）は乏しい。実際、学園地区住民の多くは、同一市内であってもその地区外に関する社会的、歴史的、文化的情報に関心を示してこなかった。さらに近年では、つくばエクスプレス線（TX）の開通前後から急速に進みはじめた学園地区内における社会インフラの整備、人口増加、筑波山観光の振興などに伴い、学園地区とそれ以外の地域との社会的・心理的距離が拡大しつつある。

「筑波山ルネッサンス・プロジェクト」

そのような一般状況に対してつくば市は、「第3次つくば市総合計画」（2005年3月）において、「魅力あるまちづくり－万葉の時代に遡る時代の歴史・文化と科学の未来の融合」を重要な政策課題として掲げるに至った。それと相前後して、人文社会科学研究科は、つくば市との懇談を通じて人文社会

分野からの「街づくり」貢献策を探り、2005年度に3ヶ年計画で「筑波山ルネッサンス・プロジェクト」を立ち上げた。そして、同プロジェクトに関わる数人の研究科教員が、シンポジウムや地域住民との意見交換会などを通じて、地域づくりの方向性に関する議論を重ねてきた。その成果の一つとして、2007年に、筑波山麓5地区で活動する地域づくり関連の地域団体やNPOが中心になり、活動に関する情報交換や地区間連携を強化するための連絡協議会が発足した。また、その動きと連動して、筑波山麓の北条地区では「北条街づくり振興会」という地域の活性化を担う組織が地元住民主導で立ち上げられ、同地区内にある古い店蔵を再利用した地域情報発信拠点（兼・カフェ）「岩崎屋」がオープンした。この運営には筑波大学の学群生や院生が深く関わっており、地域の人々との協働が、（実験段階ではあるが）実現している。

続ルネッサンス：「つなぐ」ために

ここで紹介する「夢」としての地域づくりプロジェクトは、これまでのルネッサンス・プロジェクトおよびその派生的な諸活動の延長線上に位置づけられるものである。従来のものが「総論」的であったとすれば、今後はそれを踏まえた「各論」の段階へ移行するものとしてイメージしており、地域づくり研究の新たな局面を実践的、実証的に切りひらくことを目標とするものである。これは、地域社会の衰退という今日的課題に対して、文化人類学、社会学、経済学、法学などの社会科学諸分野だけでなく、建築学、社会工学（都市計画）や歴史学、文学、農学、環境科学などに関わる諸分野を融合させながら、当該地域社会の社会的・文化的・環境的特性を踏まえた地域づくりの方法論的確立を、地域住民と大学双方の参加によるいくつかの共同（協働）プロジェクトを通じて具体的に考えてゆきたい。

写真1　北条ふれあい館岩崎屋

写真2　北条祇園祭

この事業では、筑波山麓地域（とりわけ、北条、平沢、田井、小田の各地区）を主たる対象とし、①それらの地区と学園地区の人々とを「つなぐ」ための諸活動、および②筑波山麓地域内における諸地区間を「つなぐ」ための諸活動の開拓に関心を重点化する。なお、本事業においては、地域の人々をサポートメンバー（共同メンバー）として位置づけた上で参加を促し、常に彼らとの協働的活動を実施の前提とする。それにより、以下の活動を想定している。

・「地域振興」の観点から筑波山麓地域における文化的、歴史的、経済的、社会的資源の掘り起こし作業を地区ごとに実施すると共に、学園地区住民に対する日常の地域社会生活や筑波山麓地域に対する意識調査をおこない、双方を「つなぐ」ために利用可能な資源やその「加工」および提示方法の方向性やあり方などに関する基礎的データを収集する。

・地区ごと、あるいは地区を横断したワークショップを開催し、具体的な地域振興プロジェクトを立案すると共にそれに見合った「組織づくり」をおこない、実施を試みる。

・北条街づくり振興会が開設した上記の地域情報発信拠点「岩崎屋」や、平沢地区にある平沢官衙遺跡（歴史公園）、小田地区で整備された散策ルート（宝篋山ハイキング、文化財散策）を利用したり、いくつかの地区をベースとするNPO法人の活動などと連携した企画の立案や共催的支援をおこなう。

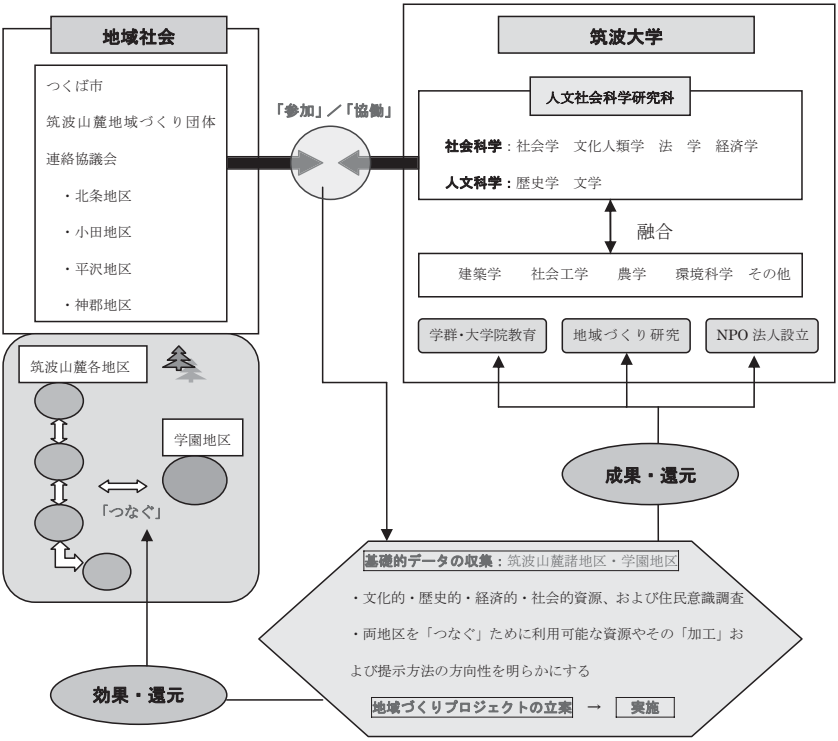
・地域振興に関わる諸団体、個人、企業、NPO、公的組織を相互につなぐハブ的なNPO法人を私たちで設立し、上記諸活動の継続性を確保する。

「つくば公共圏」の形成へ

これは、大学が、従来必ずしも活発では

写真3　平沢官衙遺跡

写真4　「つくば道」（臼井地区付近）

なかった学園地区を含む地域住民相互を結びつけるための一種のハブ的な役割を担いながらつくば市民相互の新しい関係性を構築し、これまでにないつくば市民アイデンティティに基づく新しい「つくば公共圏」の形成を試みるものともいえる。TX開通に伴い沿線開発が進み、つくば市の活性化およびその予兆がすでに一面においてみられるが、本事業は、そのような社会的動向を学園地区や筑波山観光のような一部の地域や産業分野にとどめることなく、つくば市全体の活力ある地域づくり（「つくばづくり」）につなげたいと考えている。またそれによって、大学が地域社会の一種の「核」（社会的ハブ）としての側面を備えることも可能となり、「地域の中の大学」という筑波大学にとっての新しい役割を研究及び教育双方の面から確立することも、本事業における「夢」のひとつである。

つくばの地域づくり、「旧住民」と「新住民」の社会的・人間的つながりを具体化するための諸活動に、社会的、研究的、あるいは教育的観点から興味を抱く多くの教員や学生の方々の参加を募りたい。